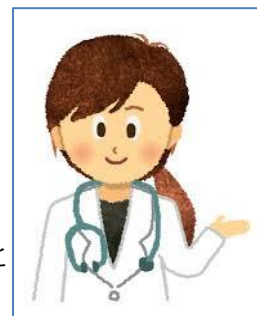


■日向寺芽衣さん、福島医大医学部合格！

2月13日(火)に福島県立医科大学医学部の推薦入試の合格発表があり、3年4組の日向寺芽衣さんが見事合格しました。福島県立医科大学の医学部への合格は、本校では初となる快挙です。発表当日の夕方、福島民報社と福島民友新聞社の取材を1時間ほど受け、翌日の新聞に大きく取り上げられました。新聞社の取材の中で、「災害医療に関心がある」と話していましたが、医療のどの分野に進むかは大学に入ってから決めていくということです。夢に向かってがんばってください。



■学年末考査に向けて

3月4日(月)～7日(木)にかけて、学年末考査が実施されます。今年度最後の定期考査になります。悔いが残らないようしっかり取り組みましょう。毎回伝えていますが、特に推薦入試で大学合格を目指す場合、評定平均値が大きく影響してきます。3年生になってから「もっとがんばっておけば良かった」と思うのではなく、「がんばってきて良かった」と思えるようにしてほしいものです。

■大学入学共通テストの平均点

2月5日(月)に発表になっていますので、すでに確認した人もいるかと思いますが、1月13日(土)～14日(日)に実施された大学入学共通テストの平均点を下に示しました。英語(リーディング)と政治・経済で過去最低点となっています。筆者は校内の「大学入学共通テストの講評」で政治・経済については、「(経済的な分野で)かなり難しい問題も出題されている印象がある」と書きましたが、全国的な結果もそのような形になったようです。

| | | | | | |
|-----|------------|-----------|------------|-----------------|----------------|
| 科目名 | 国語(200) | 世界史A(100) | 世界史B(100) | 日本史A(100) | 日本史B(100) |
| 平均点 | 116.50 | 42.16 | 60.28 | 42.04 | 56.27 |
| 科目名 | 地理A(100) | 地理B(100) | 現代社会(100) | 倫理(100) | 政治・経済(100) |
| 平均点 | 55.75 | 65.74 | 55.94 | 56.44 | 44.35 |
| 科目名 | 倫理・政経(100) | 数学I(100) | 数学I・A(100) | 数学II(100) | 数学II・B(100) |
| 平均点 | 61.26 | 34.62 | 51.38 | 35.43 | 57.74 |
| 科目名 | 物理基礎(50) | 化学基礎(50) | 生物基礎(50) | 地学基礎(50) | 物理(100) |
| 平均点 | 28.72 | 27.31 | 31.57 | 35.56 | 62.97 |
| 科目名 | 化学(100) | 生物(100) | 地学(100) | 英語(リーディング)(100) | 英語(リスニング)(100) |
| 平均点 | 54.77 | 54.82 | 56.62 | 51.54 | 67.24 |

■合格体験記

今回の合格体験記は、体育コースと特進コースの3年生に書いていただいたものになります。ぜひ参考にしてみてください。

【合格体験記】 柴田源儀さん（3年6組）
岩手大学農学部森林科学科（学校推薦型選抜）

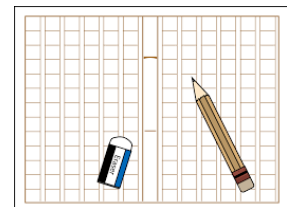
私は、岩手大学に学校推薦型選抜で合格しました。受験では面接と小論文が課されました。小論文の中には、英語力が必要になる問題も出題されていました。受験を決めてからは主に英語に力を入れて勉強しました。最初は英単語すらまともに分からない状態でしたが、日々コツコツと頑張りました。



推薦入試は受験までの期間が短いですが、一般入試と比較して試験内容としては取り組みやすいものが多いと思います。特に体育コースの人は部活動に割く時間が多いためなかなか勉強に充てる時間を確保できないと思いますが、どの大学を目指すとしても早くから準備をして対策を取っていくようにしましょう。

【合格体験記】 稲川倭太さん（3年6組）
東北学院大学経済学部経済学科（指定校推薦）

指定校推薦はどこの大学も小論文と面接だと思います。小論文だけのところもあれば、面接だけのところもあるかもしれません。僕が受けた東北学院大学経済学部経済学科の入試は小論文だけでした。小論文だけだからといって楽するのではなく、小論文だけだからこそ完璧にできるようにしました。



小論文の内容は、課題文についてまず100字以内で要約をして、さらに700字以内で自分の考えを書くというものでした。練習しないと700字以内で自分の考えは書けないものです。ですから、試験前に先生方に添削をお願いしてたくさん練習しておくことをお勧めします。

当日は緊張してうまくいかないこともあると思うので、たくさん練習して自信を持って臨むようにしてください。やってきたことを思い出せばできると思うので頑張ってください。試験会場では服装や髪型も見られていると思って臨んだ方が良いでしょう。印象も大事だと思うので、試験管の方に好印象を与えられるようにきちんとした態度で臨みましょう。自分の希望進路実現のために努力を重ねてください。

【合格体験記】 中野実玲さん（3年4組）
東京経済大学現代法学部（自己推薦選抜）

私は、東京経済大学の現代法学部を自己推薦選抜で受験しました。前から法律に興味があったことと、就きたい職業で必要なことを学べる学部だったので志望しました。

一次試験は志望理由書の選抜でした。主にボランティアや詩吟、課外活動に参加したことを書きました。高校生活の中でたくさんの方に挑戦してきたことが合格につながったと思います、やって良かったと感じました。

二次試験は、基礎学習能力試験と面接でした。試験は国語、数学、英語の基礎的な問題が出題されました。過去問を解いて問題の傾向を確認し、似たような問題がある問題集を解きました。また、数学に関しては、1・2年生の課外授業で問題をたくさん解き、先生方にしっかりと教えていただいたので、そのおかげで試験ではすらすらと解くことができました。

面接では、主に将来の夢や大学でやりたいことなどを質問されました。対策としては、何人かの先生に練習をお願いしました。答えが思いついてはいても、言葉でうまく表せないことが多くあったので、先生方にしっかりと面接練習をしていただいて本当に良かったです。もし練習していなかったら、本番で思うように話すことができなかつたと思います。

入学試験本番では、今までで一番と言っているくらい緊張しました。しかし、アドバイスをくださった先生方の言葉や、家族、友達から応援されたことを思い出し、「絶対合格する！」という強い気持ちを持って挑むことができました。合格できた時は本当に嬉しかったです。私が合格できたのは、たくさんの人の支えがあったからだと思います。ありがとうございました。



■ 2年生にリクルート講演会

1月26日（金）の5～6校時に2年生を対象にリクルート講演会を実施しました。本来であれば、聖賢堂に一堂に会して実施したいところでしたが、パソコンを使って、大学等の検索をしてもらう際にアクセスが集中して作業に支障が出る可能性があることから、各クラスでの実施となりました。趣旨は、「自分の学びたい分野について、複数の学校を比較、検討して、3月から実施されることの多いオープンキャンパスに備える」ということでした。ホームページやパンフレットだけでなく、必ずオープンキャンパス等に参加し、志望校を直に見ておくことをお勧めします。また、同じ名前前の学部学科でも、カリキュラムや学費など、いろいろと違いがあることと思います。よく検討して志望校を決定していくようにしてほしいものです。

■ 第 100 回箱根駅伝から



今年で 100 回目を迎えた箱根駅伝。お正月に家族でテレビを見ていたという人も多いことでしょう。歴史ある箱根駅伝ですが、第 1 回目の開催に至るまでの関係者による新聞社等への金策には苦勞が絶えなかったようです。東京高等師範学校（現在の筑波大学）出身の金栗四三（ストックホルム・オリンピック、マラソン代表）が開催に向けて尽力した一人として知られています。金栗は「五輪（オリンピック）で日本を強くするために、世界で通用する長距離選手、マラソン選手を育成することが大事」との考えから箱根駅伝を発案したとする説があります。なお、金栗四三については、2019 年の NHK 大河ドラマ『いだてん〜東京オリムピック噺〜』で取り上げられました。

第 1 回目は 1920 年 2 月に開催されました。1919 年 10 月に先の金栗四三、東京高等師範学校教授の野口源三郎、明治大学の沢田英一の間で、アメリカ大陸を継走で横断する計画が持ち上がり、その代表選考会を行うことがそもそもの目的だったとする説があります。関東の多くの大学や師範学校などに呼びかけられましたが、長距離選手を 10 名そろえられる学校は少なく、東京高等師範学校、明治大学、早稲田大学、慶應義塾大学の 4 校が出場しました。このときの総合優勝校は東京高等師範学校でしたが、そもそもの目的であったアメリカ大陸を横断するレースは実現されなかったそうです。

紆余曲折を経て、すっかりお正月の恒例行事として定着した感のある箱根駅伝ですが、これまでの最多出場回数、最多総合優勝回数はいずれも中央大学が記録しています。出場回数 97 回、総合優勝回数 14 回を誇ります。それだけに今回の 100 回大会に対する思いは他の大学を凌ぐものがあったのではないかと考えられます。この 10 年ほどは途中棄権や連続出場が途絶えるなど、危機的な状況もありましたが、昨年は見事に復活し 2 位となりました。今年は優勝を狙いましたが、エースの吉居大和選手らが振るわず、13 位に終わりました。

箱根駅伝がここまで人気が出るようになったのは、1987 年から日本テレビで中継が開始され、定着していったことによる大きいと思います。当初は「ただ学生が走っているだけの映像を流し続けて、番組として成立するのか」などという反対意見もあったようですが、年を経るごとに制作する側も箱根駅伝から生まれる人間模様をさまざまな形で伝えるなどの工夫を重ね、現在に至り、多くのファンを獲得していったと言えるのではないかと考えられます。

さて、今年の結果ですが・・・。過去 10 年間で 6 回の優勝と群を抜く成績を誇る青山学院大学が 100 回目の記念大会を制し見事 7 回目の優勝を果たしました。学生駅伝 2 年連続 3 冠王を狙った駒澤大学は 1 区から 3 区にエース格の 3 選手を配置し、3 区までに他校と大差をつけて優勝を狙う作戦だったようですが、2 区までに大きな差をつけられず、3 区で青山学院大学の太田蒼生選手に逆転されました。太田選手は想定していた流れでイメージ通りの走りができたとすし、学生最強選手とされる駒澤大学の佐藤圭汰選手との競り合いで負けませんでした。ある解説者が話していましたが、「普段はあまりそういうことを感じさせないが、青山学院大学は泥臭く練習している」と評価していました。原晋監督の「負けてたまるか大作戦」が見事にはまった形であっばれでした。

箱根駅伝は、金栗四三により「オリンピックで通用する長距離選手の育成」がそもそもの出発点であるという説があったことは最初に触れましたが、残念ながら、この箱根駅伝が日本男子のマラソン選手が世界で戦えない要因の一つになっているという説があるようです。その背景として、長距離選手の目標がマラソンではなく、箱根駅伝になってしまっているということが挙げられると話を耳にしました。しかし、近い将来、そういった説を吹き飛ばすような、箱根駅伝で活躍した選手が世界へと飛び出していくことをファンの一人としては期待しています。

文責：清水聖（進路指導主事）